

Chiba Rosai News

千葉ろうさいニュース

Vol.12

平成28年10月1日



小児科・耳鼻咽喉科医師

目次

2・3

当院の小児科・耳鼻咽喉科のご紹介

小児科部長 宮本 治子
小児科部長 鈴木 宏
耳鼻咽喉科部長 角南 滋子
耳鼻咽喉科副部長 佃 朋子

4

当院の精神科について

精神科医師 松木 悟志
臨床心理士 高木 省加

5

放射線治療のご紹介

放射線科部長 安田 茂雄

6

院内ボランティア活動のご紹介

ろうさい mini News
出前講座について

7

連携登録医のご紹介

いちほら耳鼻咽喉科

8

当院の理念

リハビリ美術館

当院の小児科・耳

千葉ろうさい病院小児科は35年の歴史を持っています

千葉ろうさい病院小児科は1981年に新設され35年の歴史を持っています。外来のみの診療から2人体制で入院も見られるようになり、帝京大学病院がオープンしたことから、内科、整形外科、脳外科、外科、小児科の5診療科が待機制を組むようになったと聞いています。その後、2002年から帝京大学病院、千葉県循環器病センター、千葉ろうさい病院の3病院で小児2次救急の輪番制を組むようになり市原市の小児医療は24時間どこかの病院小児科がカバーする体制が確立しました。市原市は、車で30分くらいのところに千葉大学病院小児科、千葉県こども病院、千葉東病院、千葉県リハビリテーションセンター、千葉県循環器病センターなど、それぞれの小児疾病分野で専門治療ができる病院がでんと構えています。このような地理的条件で小児科が生き残るためには①一般小児科をきちんとみること、②専門病院へタイムリーに橋渡しができること、③地域の開業の先生方としっかり連絡を取り合い顔が見える医療をおこなうことが重要と考えています。③に関しては具体的には、紹介を断らない。土日休日夜間もできる限り対応する体制を整える。患者さんの診療結果をきちんと報告し、状態が安定したら紹介元の先生にお返しする。ことと考えています。まだまだ、いたらない私どもですが、少ない人数で、心も体も疲弊に陥らない工夫を考えながら、現状から質を下げず、より充実できる努力を積み重ねていきたいと考えています。



小児科部長
宮本 治子
みやもと はるこ

日常診療における病原微生物診断と耐性菌対策

一般小児科診療では咽頭扁桃炎・気管支炎・肺炎などの気道感染や急性胃腸炎などがかなりの部分を占め、その主な病原微生物はウイルスです。したがって抗菌薬投与が必要となる割合は高くはありませんが、同じ疾患でも全く同様の経過を示すわけではなく経過が遷延して診断に悩む場合は、念のため抗菌薬投与となってしまうがちです。

一方抗菌薬耐性という観点からは、以前より病院内感染の原因菌としてMRSA（メチリン耐性黄色ブドウ球菌）やMDRP（多剤耐性緑膿菌）などが問題となっていました。現在では外来でみられるような市中感染でも、肺炎・中耳炎などではPRSP（ペニシリン耐性肺炎球菌）やBLNAR（ベータラクタマーゼ陰性アンピシリン耐性インフルエンザ菌）、尿路感染症ではESBL（基質拡張型ベータラクタマーゼ）産生菌が増加しています。これらの耐性菌を増加させないようにするにはやはり抗菌薬の適正使用が重要となってきます。

感染症の原因微生物が特定できれば無駄な抗菌薬投与を避けることができます。保険適応などの制約もありますが、当科では必要に応じて、症状や身体所見、他の検査結果なども参考にして迅速抗原検査（インフルエンザウイルス、RSウイルス、アデノウイルス、ヒトメタニューモウイルス、マイコプラズマ、ノロウイルス、ロタウイルスなど）を活用し、病原診断に努めています。血液・喀痰・尿・便などの細菌培養も必要に応じて実施することは言うまでもありません。



小児科部長
鈴木 宏
すずき ひろし



耳鼻咽喉科のご紹介

耳鼻咽喉科の入院診療について

当院の耳鼻咽喉科では、昨年度1年間に319名の入院治療を行いました。当科の入院症例の約半数は手術目的の患者さんです。最も多いのは鼻の手術で、内視鏡を使用する副鼻腔炎や鼻中隔湾曲症などに対する手術です。次に多いのは甲状腺腫瘍手術です。耳鼻科の診療範囲には、耳・鼻・のどの他に唾液腺や甲状腺など頭頸部領域も含まれます。甲状腺手術は外科が行われている施設もありますが、当院では耳鼻科で行っています。（甲状腺の病気の中で、甲状腺機能亢進症など薬剤が治療の主体となるものは、当院の代謝内分泌内科が診療し、耳鼻科では甲状腺腫瘍の診断や手術を担当しています。）そのほか、顕微鏡下喉頭手術（声帯ポリープ等）、唾液腺手術、扁桃摘出術などが多くなっています。

手術目的以外の入院では、突発性難聴が最も多く、点滴など薬剤治療と高気圧酸素治療を併用して治療を行っています。また、細菌などの感染による咽喉頭の炎症も多く入院されます。急性喉頭蓋炎や扁桃周囲膿瘍など、のどの重い炎症に罹ると、強い痛みとともに、食事や水分が摂れなくなったり、呼吸困難をひき起こすため入院治療が必要になります。次いで内耳性めまい、末梢性顔面神経麻痺が多くなっています。

私たちは、周りの医療機関の方々と連携し、院内の他職種とも協働して、個々の患者さんの状態やニーズに応じた、より質の高い診療を提供できるよう、これからも精進を重ねて参りたいと考えています。



慢性副鼻腔炎について

慢性副鼻腔炎という病気はご存知ですか。蓄膿（ちくのう）症といったほうが聞き慣れているでしょうか。人の顔には頬、眉間、額等の骨の中に副鼻腔という空洞があります。それらは、鼻と交通しており、健全な場合には空気が入っています。ここに炎症を起こし、粘膜が腫れたり鼻汁や膿が溜まったりする状況が副鼻腔炎です。

副鼻腔炎になると、鼻が詰まったり、色のついた粘稠な鼻汁が続いたり、鼻の中が臭ったり、頬や眉間が痛くなったりなどの症状がでます。風邪をひいたとき等に短期間このような症状がでることはよくありますが、これらの症状が1カ月以上持続する場合には慢性副鼻腔炎の可能性があります。

副鼻腔炎に対する初期治療は鼻の掃除や吸入、内服等です。これらの治療を受けていただいても改善のない場合や、鼻内にポリープ（炎症を起こした粘膜が高度に腫れあがったもの）があるときには、手術を行うことが改善につながる場合があります。

蓄膿症の手術は痛い顔が腫れるしつらいものだと思いませんか。副鼻腔炎の手術は日々進化しております。昔は口腔から切開し、頬の骨を大きく削る手術が一般的ですが、内視鏡の進化に伴い、最近では副鼻腔炎の手術も鼻の穴から内視鏡で行うことが一般的になっております。当科でも多くの患者様の副鼻腔手術を行っており、鼻症状の改善に貢献しております。当科は近隣の医院と連携をとっておりますので、このような症状にお困りの方は、まずは近所の耳鼻咽喉科医院でご相談ください。手術を検討の方がよいと診断されました方は、紹介状をもらって外来予約を取得してください。最適な治療法を一緒に考えましょう。



当院の精神科について

レジリエンス～健康を作る～

精神科医師 ^{まつき さとし} 松木 悟志

当院の精神科は、入院病棟がないため、外来診療とリエゾンコンサルテーション（体の病気で入院している患者さんの精神的なかかわり）が中心です。患者さんとのやり取りの中で感じるレジリエンス（自然治癒力とも言われます）について3つの視点から紹介します。

1つめは、体にづらいところがあると、原因・病気探しを始めます。しかし必ずしも原因が見つかるわけではなく、24時間病気の事ばかり考えて過ごす方がいます。そこから、自分のやりたいこと、私らしいことに目を向けて、今できることを大切にして活動を増やしていくと、体のつらさは残っていても豊かに過ごす健康な時間を増やしていきます。

2つめは、過去や原因を考えるとうつうつと暗い気持ちに、将来を先回りしすぎて考えると不安が強くなります。そこで過去や将来のことはそっと脇において、目の前にある“今をいきる”ことが健康を作る力になっていきます。

3つめは、“今をいきる”のに、一人でできることばかりではなく、家族・近所・友人とのつきあいが今を豊かにしてくれます。人を思いやり、絆が深まり、そして思いやりが返ってくるいい流れが生まれ、ともにいきる豊かさにつながっています。

患者さんが元々もっているレジリエンスを①病気にとらわれず、②今をいきる、③人を思いやることで心身の健康を自分で作っていくものとしてとらえ、患者さんが病気を過ごすのではなく、自分らしく過ごすことを一緒に考えながら日々診療に当たっています。

ともに生きることを支える

臨床心理士 ^{たかぎ せいか} 高木 省加

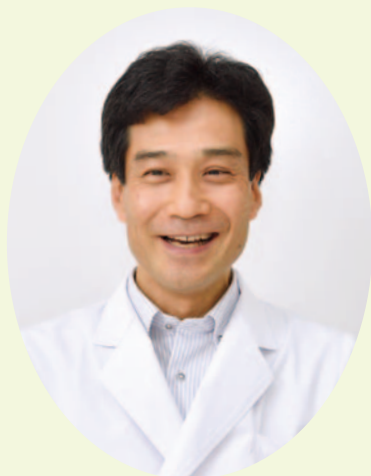
当院では認知症疾患医療センター、緩和ケア、精神科で主に業務を行っています。これらの領域では病気とともに生きていくことが目標になることが多く、臨床心理士が力になれる部分が多いのではないかと感じています。

というのも、医療では病気や症状を取り除くことを目標にしますが、こころに寄り添うアプローチでは病気や症状を含めて“その人”と捉え、必ずしも病気や症状を取り除くことを目標にしません。病気や症状があることが患者さんにとってどういう意味を持つのか、それらとともにその人らしく生きていくためにはどうしたらよいかを患者さんとともに考えていきます。



“ともに考えていく”というのはあくまでも主役は患者さんだからです。病気や症状の意味やその人らしさは患者さん自身が決めていくことですし、患者さんの中に答えがあると考えています。私は糸が絡まって見えにくくなっている答えにたどり着くためのすべを知識としていくつか持っているにすぎません。実際に糸をほどくかどうかを決めるのは患者さんですし、糸をほどいていくのも患者さんです。病気や症状を自分のものとして引き受けて生きていくのも患者さん自身です。その過程に寄り添い、そこに伴う感情をともに感じながら患者さんが答えにたどりつく道のに同行する、ともに生きることを支える、臨床心理士とはそんな仕事だと考えています。

放射線治療のご紹介



放射線科部長
安田 茂雄
やすだ しげお

ドイツのレントゲン博士がX線を発見してから120年余り、今や放射線は医療の現場では必要不可欠なものとなっています。放射線を用いた診療には、体の中から出てきた放射線をX線写真やCT、シンチグラムなどの画像にして病気の診断に用いる診断部門と放射線を体に吸収させることで効果を得る治療部門に分けられます。

放射線治療は主にがんの治療に用いられ、手術、化学療法（抗がん剤を用いた治療）などと並んでがん治療の柱の一つとなっています。昭和56年以降、がんは日本人の死亡原因の第一位を占め、高齢化社会を迎えてがん罹患する人はますます増えています。放射線治療は形態や機能を温存でき、年齢や全身状態等による制限が少ないことから高齢者にも比較的優しい治療として提供できます。放射線治療は体の一部に用いる局所療法で、部位によって行いやすさが異なり、病気によって効きめも様々です。治療を目指した根治的治療とともに痛みなどのつらい症状を軽減する対症療法としても用いられます。線量や照射回数・治療期間は病状によって異なります。放射線を単独で用いる場合と化学療法や手術などと組み合わせて用いる場合があり、全身の様々ながんに対して各診療科と連携して病状に合った治療を提供します。

放射線治療の進歩は目覚ましく、当院では平成28年7月に最新の治療システムを導入しました。専用のCT装置で撮像した画像を元にしたより綿密な治療計画および、より安全に早く正確な治療が行えるようになりました。ただし、最新の装置であっても、それを扱うのは人間です。患者さんの立場に立って質の良い治療を提供できるよう、専任のスタッフ（医師、技師、看護師）が協力して治療に当たっています。ご相談、ご質問等がございましたらお気軽にお尋ねください。



院内ボランティア活動のご紹介

当院では様々な部分において院内ボランティアの方々にお力添えをいただいております。

活動内容として、入院患者さんへ図書貸出を行う移動図書、院内の案内や受診受付の仕方等をご案内する総合受付案内、中央材料室においての衛生材料づくり、リハビリテーション科にて患者さんのお話相手になっていただくお話ボランティアがごございます。

昨年度入院棟の2階には、患者さんに医療情報を提供し、病気に関する知識を深めていただく目的で患者情報・図書コーナーが設置されましたが、そちらにおいても早速案内業務をしていただいております。

このように、ボランティアの方々には患者さんのニーズにきめ細かく応えていただく存在としての重要な役割を担っていただいております。

活動に興味を持っていただいた方がいらっしゃれば、当院の総務課（ボランティア担当宛）にお気軽にお問い合わせください。



▲衛生材料づくり



▲移動図書

ろうさい mini News

出前講座について

当院では地域住民の皆様との交流・医療についての知識を深めていただくために出前講座を行っております。当院医師等が公民館・コミュニティーセンターにお伺いし講座を行います。

当院ホームページに講座テーマを記載しておりますのでご参照いただき出前講座をご希望であれば①希望のテーマ②日時③開催場所④参加人数⑤代表者名をご連絡ください。

日時等で調整のつかない場合はご相談させていただきます。



▲整形外科の中島部長が骨そしょう症について講演を行いました。



連携登録医のご紹介

いちほら 耳鼻咽喉科

かたはし たつあき
院長 **片橋 立秋** 先生



平成13年に市原市潤井戸に開院し、15年目を契機に本年9月より、うるいど南に診療所を移転いたしました。千葉ろうさい病院より車で5分以内の立地です。旧診療所で気付いた問題点を改善し、より受診していただきやすい施設にいたしました。診療電話予約はフリーダイヤルの導入により患者さまの負担軽減を図り、最終受付時間を土曜日も含めて午後7時までに延長することにより、仕事・学校帰りの方の利便性を図りました。また、環境面ではプライバシーに配慮した診察室、小さなお子様にも安心してお待ちいただけるキッズスペース、そして薬局との間には憩いの空間として緑の広場とサークルベンチを設けました。

診療面では耳鼻咽喉科医療の窓口となるべく、広く患者様を受け入れてまいりたいと思っております。それにより、少しでも多忙なろうさい病院のお役に立てれば幸いです。

さらに、当院では他の医療機関との「横の連携」・「縦の連携」を重視しております。

近隣の小児科・内科など他科診療をとの「横の連携」により、耳鼻咽喉科のみの診療では対応できない患者様に最適な治療が提供できるよう心掛けております。

また、当院での治療レベルを超える患者様には大学病院や、地域拠点病院との「縦の連携」をもって高度な治療をお願いしております。特に、最寄の千葉ろうさい病院には救急、時間外など多くの患者様に柔軟かつ適切に対応していただき、大変感謝しております。

これからも、千葉ろうさい病院と密接な連携を保ちつつ地域医療に貢献してまいりたいと思っております。よろしくお願ひ申し上げます。

いちほら耳鼻咽喉科 診療案内

〒290-0170 千葉県市原市うるいど南3-1-1

お問い合わせ(代表電話) **0436-76-8088** / 予約専用 **0120-35-3387** ★初診の方も利用可★
(IP電話の方は0436-76-9115)

診療科目 耳鼻咽喉科

診療時間		月	火	水	木	金	土	日・祝
午前	9:00~1:00	休	○	○	休	○	○	休
午後	3:00~7:00	休	○	○	休	○	○	休

※窓口受付時間：午前8時半～午後7時

【休診日】月曜日・木曜日・日曜日・祝日

※予約システム24時間利用可能

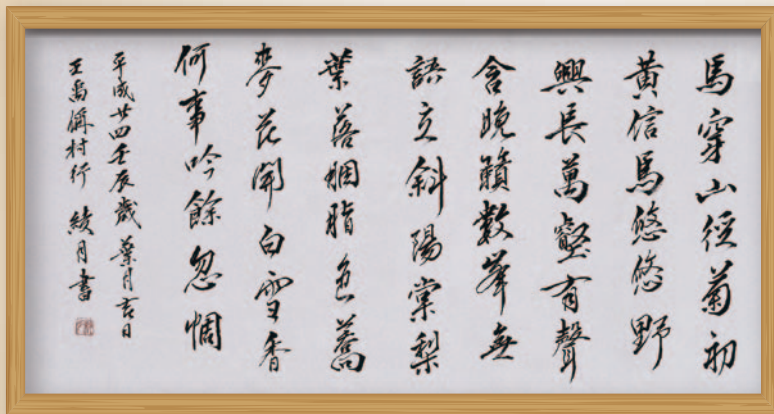
千葉ろうさい病院 理念

基本理念

私たちは、地域の人々、勤労者の方々に高度で安全な医療を提供します。

基本方針

1. 患者の権利を尊重し、安全で質の高い医療を提供します。
2. 急性期医療・予防医療を担い、基幹病院として地域医療に貢献します。
3. 働く人々の健康を守り、社会復帰を支援します。
4. 豊かな人間性と高い技能を備えた医療人の育成をはかります。
5. 明るく向上心に満ちた職場をつくれます。



作／峰島あやさん



編集 後記

今年の夏はオリンピック／パラリンピックでたくさんの感動をもらいました。自分も頑張らなくては、という気持ちにさせてもらいましたね。

秋です。スポーツをするには良い季節となりました。

しかしいきなりスポーツと言ってもさして何をしようか……ひとまずエレベーターの使用を減らしてできるだけ階段に切り替えることかな、と考えております。

川野 みどり（産婦人科）